



2ハンドル混合栓

取扱施工説明書

施工・使用前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

このたびは、2ハンドル混合栓をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

使用圧力条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。
- 給水・給湯圧力は圧力差があると、温度調整がしにくくなります。やけど防止のため、給水圧力は、給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
- *電気温水器と組み合わせる場合は、特にご注意ください。

安全上のご注意

施工・使用される前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく使用ください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ずお守りください。

注意 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または、物的損害が発生する危険な状態が生じることが想定されます。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

- 必ず実行していただく「強制」を示します。
- してはいけない「禁止」を示します。
- 気をつけていただきたい「注意」を示します。
- 接触禁止を示します。

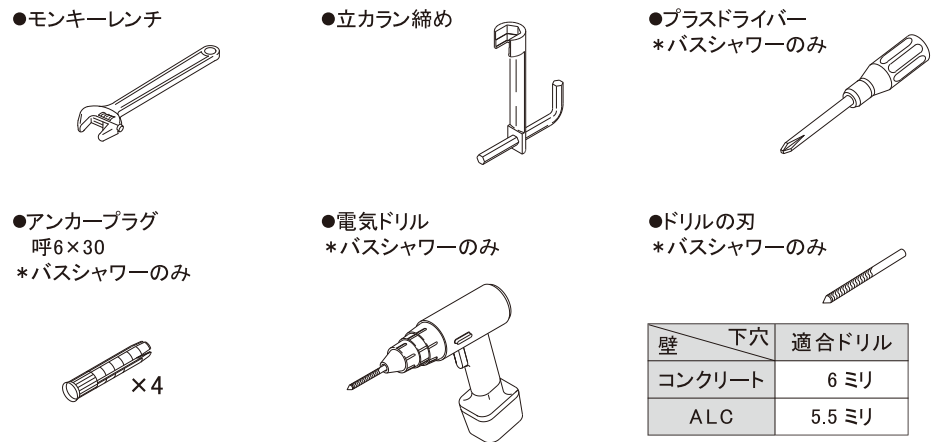
施工上のご注意

必ず実行	<ul style="list-style-type: none"> ●配管内の、ゴミや砂などは完全に洗い流してください。 ●給湯機からの配管は、配管圧力損失を少なくするため最短距離で配管し、必ず保温材を巻いてください。 ●各部の接続を行う際は、パッキンがついていることやそれらに破損・変形がないことを必ずご確認ください。漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。 ●水勢調節及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓を必ず設置してください。 ●給水・給湯配管および止水栓をキャビネットや流し台の裏側(壁の中)に配管(隠蔽配管)する場合は、必ず点検口を設置し、作業可能なスペースを確保してください。経年変化や劣化による漏水を発生できず、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●温泉水・中水・飲用不可な井戸水には使用しないでください。 ●元止式湯沸器には使用しないでください。 ●給湯に蒸気を使用しないでください。 ●湯と水を逆に配管しないでください。やけどや器具破損の恐れがあります。 ●給湯温度は85℃以上で使用しないでください。85℃より高温で使用されますと、製品の寿命が短くなるだけでなく、各部品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。 ●製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
注意	他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯をご使用中に湯温が急上昇することがあります。やけどの恐れがありますので、やけどの恐れがないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。

使用上のご注意

必ず実行	<ul style="list-style-type: none"> ●使用する前に、必ず適温であることをご確認ください。高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。 ●使用する前に吐水口(パイプ)側かシャワー側かを切替ハンドルでご確認ください(シャワーつきの場合)。高温の湯を使用する際に間違えると、やけどをする恐れがあります。 ●ハンドルはゆっくり操作してください。ハンドルを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、配管からの漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。 ●湯をご使用の際は、水側ハンドルから開栓してください。その後ゆっくり湯側ハンドルを開栓し、好みの温度に調節してください。湯側ハンドルを先に開栓すると高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。 ●湯をご使用後は、必ず水側ハンドルを開栓し、しばらく水を流してから止水してください。次に使用する際に、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。 ●可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。放置すると故障の原因になりますので修理をご依頼ください。
禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●給湯温度は最高85℃まででご使用ください。誤った操作によるやけどを防止するため、給湯温度は60℃程度をおすすめします。 ●シャワーヘッドには60℃以上のお湯を通さないでください(シャワーつきの場合)。シャワーヘッドの変形や破損により、やけどやケガをする恐れがあります。やけどを防止するため、45℃程度以下をおすすめします。 ●シャワーを使用して浴槽に湯をはらないでください(シャワーつきの場合)。シャワーヘッドが破損したり、逆流の恐れがあります。 ●製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
注意	<ul style="list-style-type: none"> ●湯側ハンドルのみを開く場合、高温の湯がそのまま出ます。取扱いには十分ご注意ください。 ●小さいお子様だけのご使用は避けてください。やけどやケガをする恐れがあります。 ●他所の水栓を同時使用されると、やけどの恐れがありますのでご注意ください。同時使用により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。
接触禁止	高温の湯をご使用の際は、水栓の左側および吐水口(パイプ)に直接触れないでください。水栓の左側および吐水口(パイプ)は高温になっているため、やけどをする恐れがあります。

施工に必要な工具

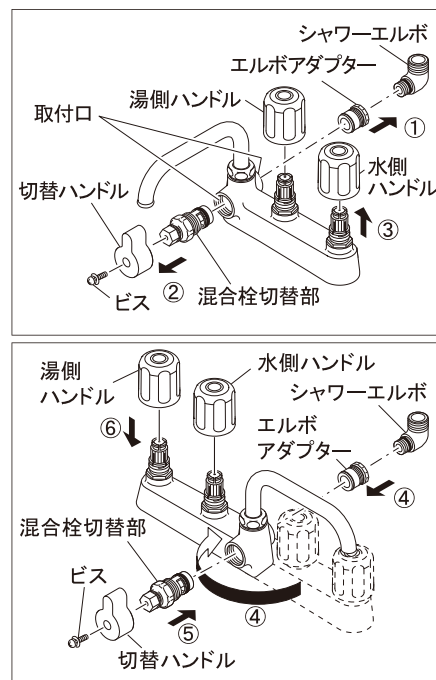


取付けの前に

パイプ取付位置の変更方法(152-303の場合)

152-303はパイプの取付位置を本体の右側・左側どちらでも使用できます。購入時はパイプは左側で梱包しておりますので、パイプを右側で使用する場合は、以下の手順で組替えを行ってください。

*取付後はパイプ位置の左右を変更できませんので、必ず、取付前に以下の作業を行ってください。



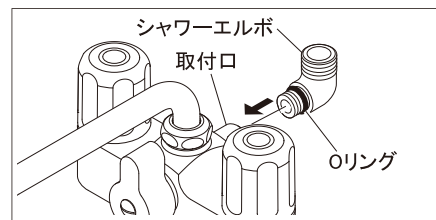
- ①シャワーエルボを手でまわして取外し、エルボアダプターを「レンチ」などでゆるめて取外します。
- ②ビス、切替ハンドルを順に取外し、混合栓切替部を「レンチ」などでゆるめて取外します。
- ③湯・水両側のハンドルを上方向に引っ張って取外します。

注意 取外しの際は、指などをケガしないようご注意ください。

- ④混合栓本体を180°回転させて、①で取外したエルボアダプターを奥側の取付口に「レンチ」などで締付け、シャワーエルボを手締めで取付けます。
- ⑤②で取外した混合栓切替部を手前の取付口に「レンチ」で締付け、切替ハンドル・ビスを取付けます。
- ⑥湯・水両側のハンドルを組替えてしっかりとめ込みます。

必ず実行 湯・水両側のハンドルの組替えは必ず行ってください。湯・水の表示が配管と逆になるため、誤った操作によるやけどの恐れがあります。

シャワーエルボの取付方法(152-102/103/205/206の場合)



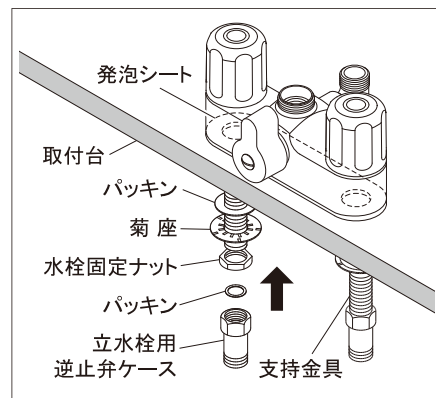
混合栓本体を取付けする前に、シャワーエルボを取付口に手締めで取付けます。
*Oリングが取付口の内側に完全に入り込むように取付けてください。

注意 Oリングが取付口の内側に完全に入り込んでいなかったり、傷がついたりした場合、漏水の原因となります。

取付方法

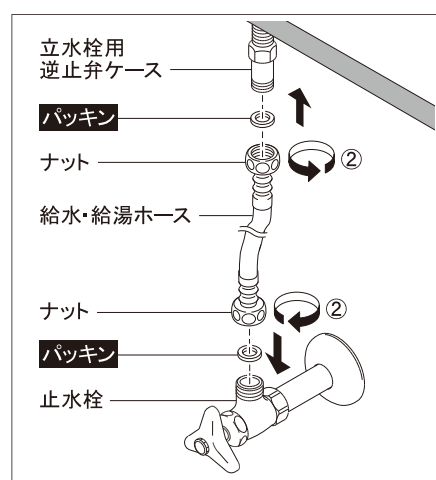
*数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、止水栓または元栓を閉めて取付作業を行ってください。

1. 混合栓本体を取付けます。



- ①支持金具より水栓固定ナット・菊座・パッキンを取外します。
*部品が別袋に入っている場合は、この作業は必要ありません。
- ②混合栓本体の底面に発泡シートが貼付けられていることをご確認ください。混合栓本体を取付台に差込みます。
- ③パッキン・菊座の順で支持金具に差込み、水栓固定ナットを「立カラン締め」などで締付け、しっかりと固定します。
- ④立水栓用逆止弁ケースを支持金具に取付け、「立カラン締め」などで締付けます。
*立水栓用逆止弁ケースが同梱されていない機種の場合はこの手順は必要ありません。「2. 止水栓と接続します。」へお進みください。
- *立水栓用逆止弁ケースに湯用・水用の指定のある機種があります。ご注意ください。

2. 止水栓と接続します。



- ①パッキンを給水・給湯ホースのナットにはめ込みます。
- ②給水・給湯ホースのナットにパッキンが入っていることをご確認ください。立水栓用逆止弁ケース・止水栓に「レンチ」などでしっかりと締付けて固定します。
*パッキンの入れ忘れにご注意ください。

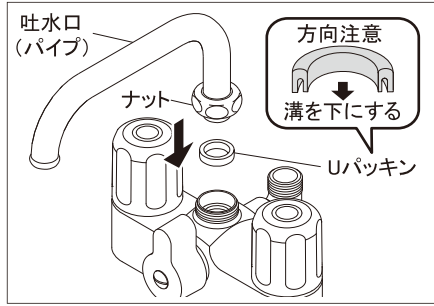
必ず実行 フレキパイプをご使用の場合、接続する配管は確実に固定してください。配管の固定が確実でないと、ウォーターハンマーなどの振動によりフレキパイプが破損する恐れがあります。

注意 湯側・水側を確認して、逆配管にならないようご注意ください。

取付方法(つづき)

3. 吐水口(パイプ)を取付けます。

*すでに吐水口(パイプ)が本体に取付けられている場合は、「4.シャワーホースを取付けます。」へお進みください。

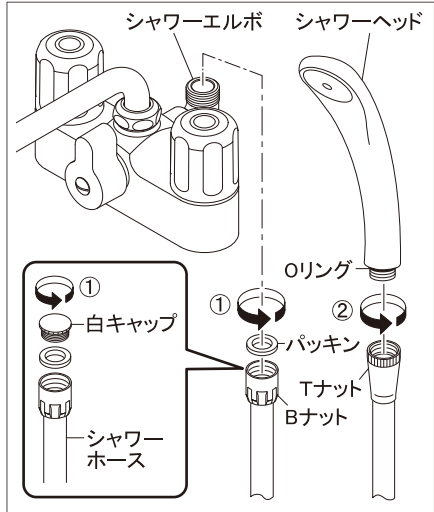


- 吐水口(パイプ)ナット部の白キャップとUパッキンを取外し、図を参考に溝の部分を下向きにしてUパッキンを本体側に挿入します。
- 吐水口(パイプ)を差込み、ナットを締付けます。

注意 Uパッキンの挿入方向を間違えたり、傷をつけたりした場合、漏水や回転不良の原因となります。ご注意ください。

4. シャワーホースを取付けます。

*シャワーなし混合栓の場合は「施工後の確認」へお進みください。



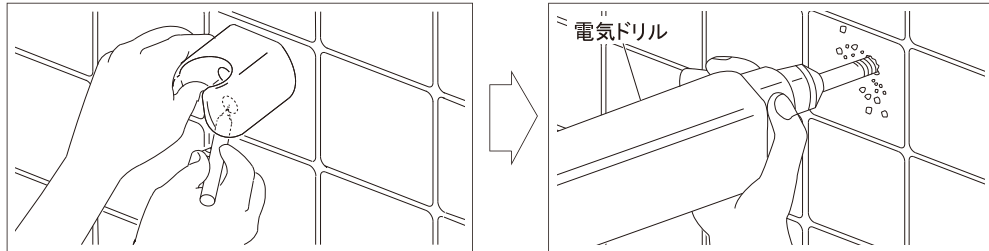
- シャワーホースのBナット側の白キャップを取外し、パッキンが入っていることをご確認のうえ、手締めで本体後ろのシャワーエルボに取付けます。
- シャワーヘッドにOリングが付いていることをご確認のうえ、シャワーホースのTナット側を取付けます。

注意 ●取付けの際、指などをケガしないようご注意ください。
●シャワーホースはねじれなどが起きないように注意しながら、手締めでシャワーエルボに取付けてください。破損する恐れがあります。

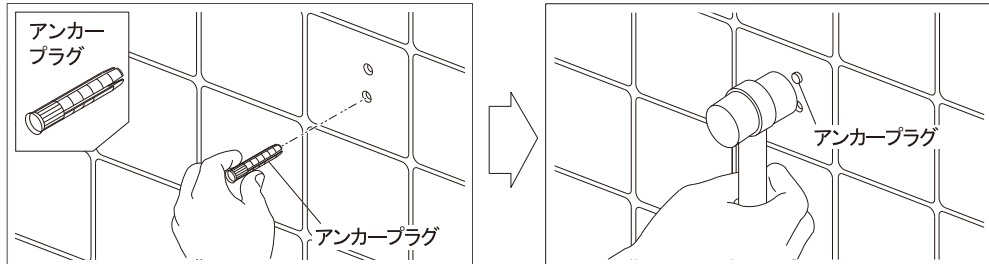
5. シャワーフックを取付けます。

*既設のシャワーフックを使用しない場合は、下記の要領でシャワーフックを取付けてください。

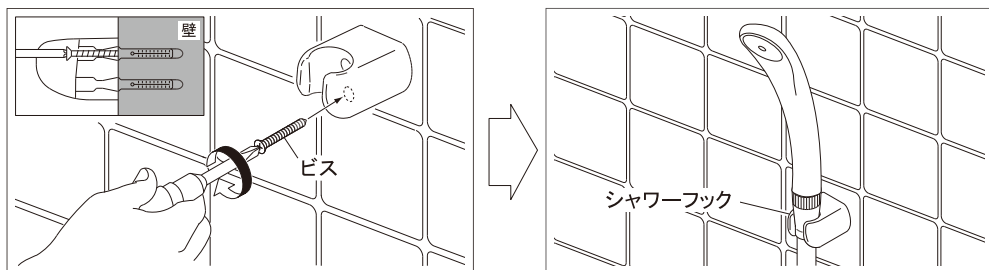
*壁に取付穴をあける際は、下記の要領で「コンクリートドリル」または、「超硬ドリル(タイル張りの場合)」をご使用ください。(「施工に必要な工具」参照)



①シャワーフックの位置を決め、壁にネジ穴をマーキングして「電気ドリル」で穴をあけます。



②ネジ穴に「アンカープラグ」を差込み、壁からはみ出さない程度に軽くたたき、埋込みます。



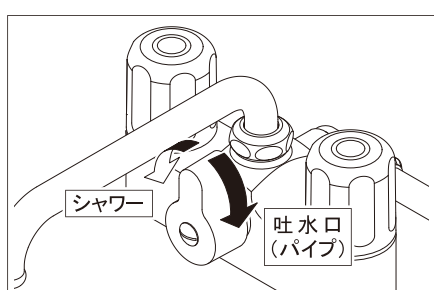
③シャワーフックを壁に取付け、「ドライバー」などでビスをしっかり締付けます。
*シャワーフックの取付方向は、シャワーホースの差込口が広い方を上にしてください。

施工後の確認

- 止水栓または元栓を開き、各部に漏水がないかを確認します。漏水が発見された場合は、止水栓または元栓を閉め、漏水する箇所を施工し直してください。
- ハンドルを開き、湯水の混合具合および吐水状態を確認します。適量、適温で吐水するために、止水栓で水量、湯量を調整してください。

使用方法

切替ハンドルの使用方法

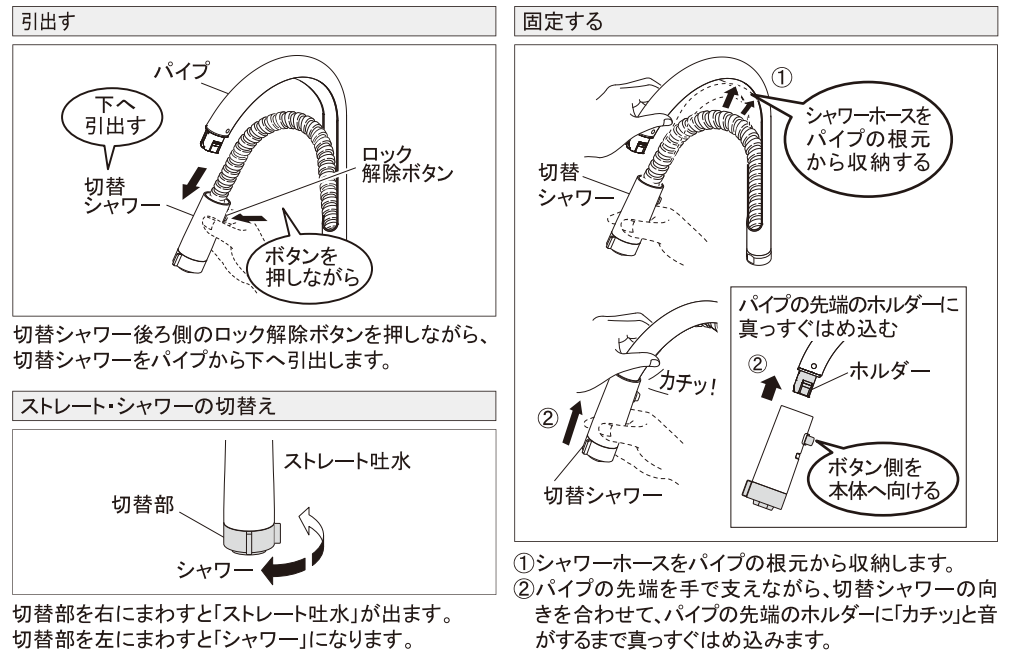


切替ハンドルの「STOP」表示を上に向ける(ハンドルつまみを上に向ける)と「止水」します。止水時よりハンドルを右にまわすと「吐水口(パイプ)より吐水」、左にまわすと「シャワーより吐水」します。
*切替ハンドルに止水機能がない機種があります。ご注意ください。

注意 ●高温の湯を使用する場合は、特にご注意ください。やけどの恐れがあります。
●使用後は必ず水栓のハンドルで止水してください。

使用方法(つづき)

スワンムーブの使用方法(151-013の場合)



切替シャワー後ろ側のロック解除ボタンを押しながら、切替シャワーをパイプから下へ引出します。
ストレーツ・シャワーの切替え
切替部を右にまわすと「ストレーツ吐水」が出ます。切替部を左にまわすと「シャワー」になります。

注意 シャワーホースは強く引っ張ったり、無理に曲げないでください。折れたり破損したりする恐れがあります。

切替シャワーの使用方法(151-012の場合)



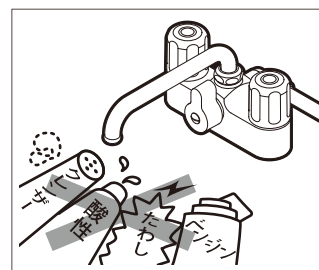
切替部を左にまわすと「泡沫」になります。切替部を右にまわすと「シャワー」が出ます。

注意 ●フレキパイプは無理に曲げないでください。折れたり破損したりする恐れがあります。
●高温の湯を使用する際は、切替シャワー先端の金属部が熱くなっています。直接触れないでください。

お手入れのしかた

器具のお手入れ

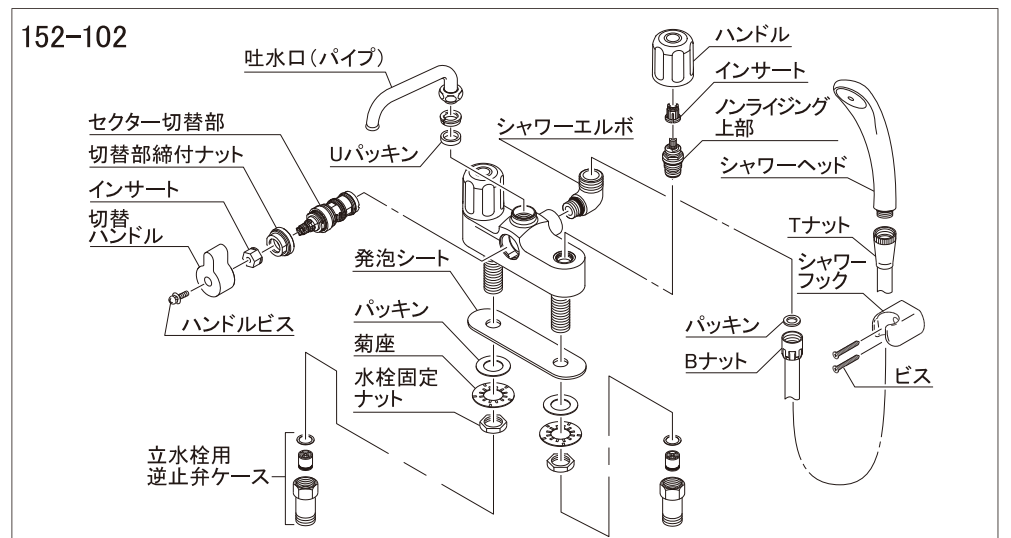
いつまでも美しくご使用いただくために。



●水栓器具の金属部
ふだんは乾いたやわらかい布でみがき、ときどきカーワックスなどをしみこませた布でみがいてください。
●水栓器具のプラスチック部・塗装面
乾いた布を使ってお手入れしてください。汚れがひどい時は、うすめた食用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いた布で水気を拭き取ってください。

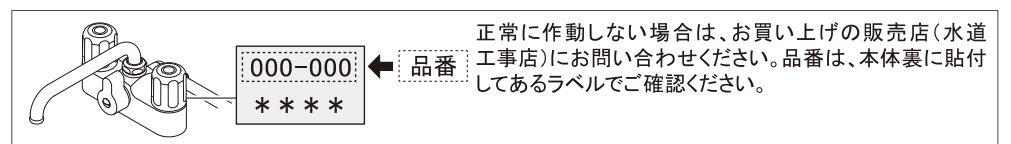
注意 金属たわしやクレンザー・みがき粉など粒子の粗い洗剤・酸性や塩素系の洗剤・ベンジン・油などは、金属表面を傷つけたりプラスチック部・塗装面を傷めますので使用しないでください。

分解図



*表記イラストは代表品番です。品番によっては図と製品の形状が一部異なります。
*製品改良のため、部品仕様などを予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

修理を依頼されるときは



正常に作動しない場合は、お買い上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせください。品番は、本体裏に貼付してあるラベルでご確認ください。



本社 〒550-0012 大阪市西区立売堀1-4-4 ☎(06)6538-1124

東京 ☎(03)3552-0981 名古屋 ☎(052)504-1551 大阪 ☎(06)6730-3391 福岡 ☎(092)611-4611
広島 ☎(082)278-2821 札幌 ☎(011)704-1511 仙台 ☎(022)239-8371

0520GF

M-A9856B

無断転載・複写を禁ず